

あなたならどうしますか？

帰宅途中に、孝一の担任の先生から電話がかかってきました。

はい。どうしました？

電話に出ると、孝一が、友だちに向かって「キチガイ」と言ったという話がありました。

私は何が問題なのか分からなかったので、尋ねました。

その言葉の何がいけないのですか？

すると先生は、

その言葉で相手を攻撃することは、しょうがいを持っている人への差別意識の表れなのです。

と教えてくれました。

説明を受けた私が、

すみません。注意をおきます。

と言いつつ、先生は…

差別発言には何かしらの原因があります。孝一さんに最近、何か変わったことはありませんでしたか？

と尋ねてきました。

改めてふりかえって気づいたのは、

そつえば最近仕事が多忙で、孝一と話したり遊んだりしてないなあ。

そのことを伝えると、先生は、

ご家族と学校が一緒になって、孝一さんをあたたく見守っていきましょう。

と語りかけてくれました。

私は今、家に帰ったらすぐに孝一を抱きしめて、いろんな話をしようと思っています。

ただいま。

おかえり。

息子の担任の先生と話して、私はしょうがい者に対する正しい理解ができていない自分に気づきました。

そして、気づかないうちにだれかを傷つけていないか考えるようになりました。

私はしょうがい者問題について知りたいと思い、後日、市で開催されたしょうがい者問題を考える研修会に家族と一緒に参加しました。